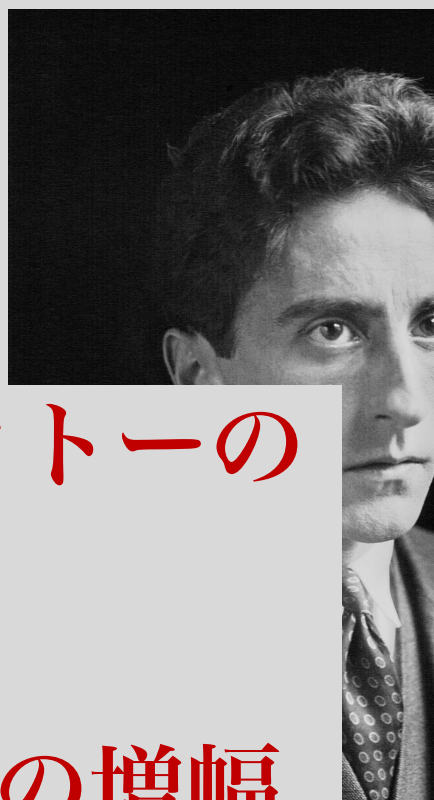


神戸大学国際文化学研究推進センター  
研究プロジェクト  
「近現代における『神話』の史的展開と今日的意義」  
第2回研究会

講師 谷 百合子氏  
(大阪府立大学 非常勤講師)



# 詩人ジャン・コクトーの 自己神話形成 —映画による分身の増幅

平成**29**年**9**月**6**日 (水)

**14:00~16:00**

神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ

(梅田ゲートタワー8F)

問合先 南郷 晃子  
kokonango@gmail.com

## 要旨

フランスの詩人ジャン・コクトー（1889-1963）は、多くの分野で活躍した芸術家である。コクトーが、どの分野においても、様々な題材を自分流にアダプテーションし、作品を生み出したことはよく知られている。本研究の目的は、コクトーが映画という媒体を通して、自己引用を含むアダプテーションという作業を行いながら、いかに自己神話を形成したかを明らかにすることにある。コクトー自身が監督した映画全6作のうち、本研究では、ギリシア神話のオルフェウス物語を題材とする3作、『詩人の血』（Le Sang d'un poète, 1930）、『オルフェ』（Orphée, 1950）、『オルフェの遺言』（Le Testament d'Orphée, 1960）を取り上げる。コクトーは、時代の異なるこれら3作を通じて、詩人オルフェに自分自身の姿を重ね合わせ、映画を通して自らの分身を創造することを繰り返しながら、それらが自己神話になるのを待っている。こうした変化をともなった反復こそが、映画の神話的可能性を広げている。

神戸大学インテリ  
ジェントラボラトリ

〒530-0014 大阪  
市北区鶴野町1-9 梅  
田ゲートタワー8階

